

森の会

MORINOKAI NEWS vol.13

ニュース13

2015年8月1日発行 編集・発行／森の仲間たち

I・N・D・E・X

- 先生からのメッセージ 2~4
- 会員だより 4~6
- 進路状況 6
- ゼミ通信、会計報告 7
- 役員紹介 8

平成27年度 森の会 総会・懇親会のご案内

日時 平成27年**10月3日(土)** 12:00~14:30 (受付11:30~)

場所 岐阜ワシントンホテルプラザ スカイルーム (11階)
岐阜市神田町7-7-4
JR岐阜駅より徒歩約7分 名鉄岐阜駅より徒歩約3分

会費 2,000円 (在学生会は1,000円) 当日受付にてお支払い下さい。
※会費は2,000円 (在学生会は1,000円) ですが、実際の飲食代金はお一人5,000円です。
会費との差額は森の会が負担いたします。

お楽しみ

岐阜大学
落語研究会による
出前寄席

金華山や岐阜の街並みを眺めつつ、同窓生や先生方と懐かしいお話やお互いの近況を語り合いませんか?
多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

同封のはがき、またはメールにて出欠をお知らせください。

ご出席・ご欠席に関わらず、同封のはがき (切手不要) に必要事項をご記入の上、ご返信下さい。
なお、Eメールにてご連絡いただいても結構です。残念ながらご欠席の方も、是非とも近況報告をお寄せ下さい。

申込み締切 9月15日(火)

託児希望の方は8月30日(日)

昨年も盛況のうちに開催されました!



集合写真2014.11.16

お子さまの同席も可能ですが、ご希望があれば託児もいたします。
森の会事務局までお気軽にご連絡下さい。
E-mail:mori2001@gifu-u.ac.jp



野原先生を囲んで



役員の出し物

来年20周年を迎えます

平成28年10月1日に地域科学部は創設20周年を迎えます。
20周年イベントを、学部主催、同窓会、後援会が協力して開催することになりました。記念行事は大学講堂、祝賀会は大学食堂で行い、森の会の来年度の同窓会総会・懇親会も兼ねます。
つきましては、同窓生のみなさまから記念行事についてのご意見、ご要望をちょうだいいたたく存じます。同封の別紙にてお知らせ下さい。

※※※※※ 素敵なお提案をお待ちしています ※※※※※



先生からのメッセージ

【人物史に魅せられて】

岐阜大学を退職して中部大学や岐阜市立女子短期大学などに勤務してきましたが、退職時から今日に至るまで変わらずに在職しているのが犬山城の入り口近くにある公益財団法人犬山城白帝文庫歴史文化館です。大学院生時代に旧尾張藩主が設立した徳川林政史研究所に勤めていたので、年を経て尾張藩主家から筆頭家老家に下って仕えることになったといえます。

これまで、近世の社会経済史が専門であり人物史は犬山城主成瀬家の史料に接してから始めたので、当初は戸惑いもありましたが、今では人物を通して社会をみる面白さにはまっています。

たとえば、初代城主の正成・二代正虎と家康・秀忠・家光との交流が、極めて個人的かつ親密であったものが、その後の代になると次第に形式的・儀礼的なものへと変化していき、そこから社会体制が組織的・機構的になっていくことがわかります。

また、犬山城の国宝天守は平成16年の財団設立まで個人所有として知られていますが、その契機が、あの明治24年の濃尾大地震による天守・石垣などの大破損の修復にあったという点に興味を持ち調べてきました。大地震直後に地元犬山町住民や旧犬山藩主などによる修復募金活動が始まって、それを踏まえて愛知県が成瀬家に犬山城を無償譲渡し、成瀬家は天守などの維持・管理を、地元の住民や旧藩主からなる管理委員会を作って

まつだ ゆきとし 松田之利名誉教授



きたのです。明治政府による犬山城の「廃城」から「公園」化、濃尾地震に際しての民間による修復と旧城主成瀬家への無償譲渡などを通して、「文化財」や「国宝」というものに対する国や県、地域住民の認識やその維持がどのように形成されるのか、また地域住民にとってのシンボルから観光の目玉へと変化するなかから、史跡や世界遺産登録志向が出てくることの意味など、「文化財」と社会との深い関わりも興味を持っています。

さらにまた、犬山城主は家康から尾張藩主義直の家老に任じられた「由緒」から、大名の家臣でありながら譜代大名の格式を与えられていたという、幕藩関係の枠組みではとらえきれない存在でした。この不思議な地位をさまざまな分野や局面から明らかにするのも魅力のひとつとなっています。

このように書くと、精力的に調査研究を進めているようにみえますが体力・気力ともに年相応に衰えており、思うように研究は進みません。同様に大好きなスキーも今年は熊の湯、赤倉、雫石、ひるがの、の4か所で終わってしまいました。

また、いまの社会情勢には恐れることが山ほどありますが、何事も体調を考えながらほどほどに対処しようとしている今日この頃です。



【あっという間に21年】

岐阜大学に赴任してからもう21年経ちます。初めて岐大を訪れたとき、自然に囲まれた環境を一目で気に入りました。

都会では働きたくなかったので、私にとって最高の職場です。

私の専門は「外国語としてのフランス語教授法」ですが、フランス語学部がない為、色々な教え方、例えば発音練習にカラオケを使うなど自由に決めることが出来たのは、とてもありがたかったと思っています。学生をフランスへ連れて行き、ホームステイしながら生きたフランス語を学ばせる。これは今では単位を取れるようになりましたが、もともと学生のモチベーションを上げるきっかけにもなっています。「Non motivé, donc motivable (モチベーションが無いのは、それをを持たせる余地があるということ)」は、私の好きな言葉です。

岐大生のイメージは、当初から「やさしくてシャイ」です。最近実感したことですが、例えば授業でクイズを出すと、フラ

地域文化講座 ● ゲラン・ジル准教授

ンス人なら競争心で活気づくところ、日本人はプレッシャーを感じるようです。プレッシャーをかけなければ雰囲気は良くなり、逆にクラスが活気づくのです。

どうして日本人はフランス語がなかなか上達しないのか。それは、日本語にはない「petits mots (直訳：小さい言葉)」つまり冠詞、代名詞などが壁になっているというのが私の今の研究テーマです。これらはフランス語のフレームであり、それを理解しないといつまでたっても霧の中で勉強することになります。「敵になる前に友達になる」という願いを込め、これらを理解できるよう、これまでになく教材作りに力を注いでいるところです。大学の授業だけでフランス語を使いこなすことは出来ませんが、将来、またフランス語を使いたいと思う時がきたなら、その時はこの「petits mots」が大切なベースとなるはず。卒業生の皆さんがいつかフランスのことを思い出して、気軽に研究室に立ち寄ってくれるのを期待しています。

[中小企業を調査する]

地域政策講座 ● ^{うやま}宇山 ^{みどり}翠 助教



昨年の10月に岐阜大学地域科学部に赴任し、地域づくり論、地域産業論の講義、地域学実習、専門セミナーを担当しています。

私の専門分野は中小企業論で大学院の修士課程から自動車や家電の部品メーカーや設備メーカーなど数多くの中小企業への調査を重ねてきました。その中で、産業集積（関連性の深い業種の企業が特定地域に集中して立地している状態）に関心を抱き、群馬県と栃木県の県境に位置する両毛地域を対象に産業集積の構造や機能、そしてそのメカニズムの解明に取り組んできました。産業集積は産業構造の変化や需要の変化に対する中小企業の柔軟な対応を可能にする機能を有しており、中小企業の存立、ひいては日本経済の発展にとって重要な要素だと考えられます。現在は両毛地域と類似の特徴を有する長野県諏訪地域との比較分析を進めています。

今年度の地域学実習では、「グローバル経済下の地場産業産地の変容」をテーマに岐阜県多治見市笠原町のタイル産業の調査を実施する予定です。笠原は日本一の生産高を誇るタイル産地

であり、タイルの原料を供給する企業やタイルを製造する企業、商社などタイルに関連する企業が多数存在します。実習では、3つのグループに分かれて全体で約10社を調査する予定です。そもそもなぜ笠原はタイル産地として発展したのか、グローバル化の中で笠原のタイルメーカーはどのような対応を迫られているか、笠原のタイル産地の構造はどのように変化したのか、といった点について学生とともに考察し、笠原という地域から日本経済の構造的な課題に迫りたいと思います。

現在、地域資源を活用した地域振興、地域づくりに注目が集まっています。岐阜県内には地場産業の豊富な地域資源が存在しますが、地域振興に活かすためには地域資源として再発見することが求められます。中小企業の調査を通じて産地内の中小企業の技術や製品などを具に明らかにし、地域にも貢献できたらと考えています。みなさん、どうぞよろしくお願い致します。



[統計・確率・ランダムネス]

地域環境講座 ● ^{なかつか}中塚 ^{ゆたか}温 助教

今年度から地域科学部に着任し、最初の仕事として記述統計学の講義を担当しています。これまで研究所勤務だったこともあり、多くの学生さん相手にものを教えるということに、まだ不慣れながら新鮮な楽しさを感じています。特に相手の反応・理解を読みながら講義を組み立てるために、何を絶対に伝えるべき骨格とし、どのくらい雑談、脇道など柔軟性を持たせるかについて手探りを続けている段階です。

地域科学部で実感するのは、学問には本当に様々な分野があるな、ということです。この学部には基礎的な自然科学から環境、歴史、社会史、語学、法学や経済学など多くの分野があり、色々な話を聞ける楽しみがあると同時に、この学部で学生さんが何を学ぶことになるのだろう、自分は何を伝えていくべきなのだろうと、ぼんやりと考えてみる場合があります。自分の研究対象は、物質の性質を、乱数と統計的手法、コンピュータを用いて理論的に調べることです。もう少し大雑把に言えば、サイコロを振って物の性質を調べる方法を研究している、と言えるで

しょう。統計、さらに言えば確率、乱数という概念は、純理論や社会調査のような学問だけでなく、天気予報や保険、暗号のようなところまで応用領域は広がっています。一方で、サイコロ振りから宝くじ、テレビゲームのようなあまり難しく見えない場面も、同じ統計、確率が生きています。もう少し広げれば、日常生活の意思決定、例えば空模様で傘を持っていくかといったことも、曖昧で感覚的ながら、経験による統計に基づいています。とりあえずの目標として、この何だか難しげに見える統計が、身近で、既に日常的に使っているものであるということ伝えること、そして、大雑把で感覚的に、大きな間違いなく身に着けられるようにすることを掲げようと思います。ビッグデータという単語が定着しだした昨今、統計に対する接し方は、どんな分野でも、誰にとっても、一層大事な素養になるでしょう。

最後になりますが、興味がある人は乱数について調べてみるのをお勧めします。なかなか面白いですよ。

先生からのメッセージ

【哲学的なテキストを読むこと】

地域文化講座 ● しばた かずひろ 柴田和宏助教



同窓会のみなさま、はじめまして。昨年10月に地域科学部に着任してまだ半年あまりですが、地域科学部はとてよよい雰囲気のところだと日々感じています。

大学の授業といっても千差万別ですが、私が大学生、院生だった頃に参加したなかで最も多くのことを学んだように思うのは、哲学書を少しずつ読み進めていくゼミ形式の授業です。一回の授業で読み進めるのは1ページくらい。とてもゆっくりですが、そのかわり読み方はとても丁寧でした。発表担当者が一文一文訳読し、参加者はそれに対して訳語のことから内容のことまで、いろいろなことを質問したり議論したりするという形式でした。そんなふうに細かいことにもこだわって丁寧に考察していくことが、哲学書を読んで問題を考えるために不可欠なことだと実感させられました。

そこで私も何かしらそれに似たかたちの授業を地域科学部で実践できればと思います。試行錯誤しています。地域科学部を出て哲学や哲学史の研究者を志す人は多くはないでしょう。でもそうでない人にとっても、こういう授業に参加することは何かし

ら意義のあることになるのではないかと考えています。たとえば複雑な文章を正確に読む力は、社会のなかのいろいろな局面で役立つのではないのでしょうか。

しかし何より授業で大切にしたいのは、苦労して読む中でテキストの意味が少しずつ明らかになってきたときの嬉しさ、テキストの解釈や哲学的な問題について人と議論しながらあでもないこうでもないと考える際に感じられる知的な喜び、といったものを少しでも感じられるようにすることです（もちろん私たちは単におもしろいから哲学書を読むわけではありませんが、ある種のおもしろさを感じられることは、学んだり研究したりすることを続けるにはとても重要だと思います）。

近年、学生にとっても教員にとっても大学をめぐる状況は厳しさを増していますが、そういう時期だからこそ、大学以外ではなかなかできない学びの機会を大切にしていこうと考えています。

会 員 だ よ り

第1期生 まるやま 丸山 よういちろう 陽一郎

早いもので、私が初めて岐阜を訪れてから二十年近くが過ぎました。地元新潟を離れ、期待と不安を抱えて未知の土地へ踏み出したあのときは、今でも鮮明に覚えています。アサヒドールカメラのCMIにささやかなカルチャーショックを感じながら、はじめて作った不細工な朝御飯の味は忘れられません。

それからの岐阜で過ごした六年間は、今の自分自身を形作るとても濃密な日々でした。学部の一年目、手探りしながらの新しい胎動の予感のなか、さまざまな人と出会い、語り合い、試行錯誤を繰り返しながら皆で‘何か’を模索していたあのとき。初めて、働くことの難しさを痛感しながら、アルバイトをしては見知らぬ土地を訪ね歩いたこと。あり余るほどの自由な時間のなかで、未だ何者でもない自分に言い知れぬ焦燥感を抱きながら、必死に足掻いていたような気がします。

現在、私は実家に戻り両親とともに養豚業に従事しています。いろいろ迷った挙げ句、結局、生まれた土地、馴染みの生業に戻ったわけですが、易きに流れたわけではなく、自らの意思で、

今の生活を選びとったと思っています。おそらく、この新潟という土地の気候風土、食や命に関わる今の仕事、日常の場所（地域）こそが私の本当の居場所であり、この場に流れる空気や価値観と異なるものを、比較、考察すること（科学？）こそが自分の生き方なのだろうと思います。あの、岐阜で過ごした六年間は私の現在に続く一つの出発点であり、確かにあの時あの場所で、自分自身の大切なもの、人生をかけて向き合うべきものを見つけ出したような気がします。



第3期生 さわの けい 澤野 圭

みなさんこんにちは。第3期生の澤野と申します。私は平成17年3月に大学院地域科学研究科修士課程を修了後、岐阜大学に事務職員として採用されました。その後岐阜工業高等専門学校、独立行政法人日本学術振興会の勤務を経て、平成26年4月に再び岐阜大学に戻ってきました。平成27年4月からは社会連携課地域連携係という部署で「大学」と「地域」との連携に関する業務を担当しています。

さて岐阜大学では平成25年8月に文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択され、同年12月にはCOC事業の実施支援機関として地域協学センターを設置し、「地域に根ざした大学」を目指して、地域の課題を解決するための取り組みを実施しています。

具体的には、連携自治体である岐阜県・岐阜市・高山市・郡上市や、地域でNPO活動・ボランティア活動等で活躍している方々とともに「次世代地域リーダーの育成」、「多様な人々が集い対話する『場』の設置」及び「地域志向学プロジェクトの推進」の3つの取り組みを柱として事業を推進しています。

特に平成27年度からは「次世代地域リーダー育成プログラム」が本格的に始動し、グローバル化する現代社会の中で活動ができるグローバルな人材の育成に取り組んでいます。このプログラムは岐阜大学のすべての学生を対象としたものですので、地域科学部の皆さんも是非履修してもらい、地域のリーダーとして活躍していただければと思います。詳しくは“地域協学センター”までお問い合わせください。



卒業後のグローバル展開

小職、(株)野村総合研究所時代に国土交通省の担当だった事もあり、同省の紹介で岐阜のゼネコンに入社しました。また岐阜大学大学院へは社会人枠で入学しましたが、帰国子女だった小職にとって初めて通う日本の学校でもありました。現役の学生と混じり学んだ日々はとても刺激的で仕事のストレスを忘れさせてくれるものでしたが、卒業も近くなると建設業の不況と共に財務責任者だった小職への風当たりが社内だけでなく金融機関からも強くなってきました。そこで、日本政府がエネルギーを握られた国の金融行政に就職すれば日本の金融機関も頭が上がりないだろうというつまらない考えから幼少期を過ごしたアラブ首長国の中央銀行への入行を決意した訳です。

入行して驚いた事はふたつありました。一つは海外での大学院卒の価値、評価が非常に高く給与に反映されている事。もう一つは小職が日本で10年間過ごしている間に新興国から有能人材が多く輩出されている事でした。これらグローバル人材はMBA、CPAなどの専門資格に加え3カ国語以上の言語を操るのが一般的です。なので日本政府から訪れる金融担当キャリアも歯が立たない現場を目の当りにする機会が多いのです。

大学院第7期生 さとう りょうじ 佐藤 良二

最近日本の上場企業でも求められる人材は、平均主義でなく得意分野を持った精神面で強い人材です。日本における人材の空洞化を懸念していますが、円安の影響もありここ数年多くの日本人がこちらの政府機関を志願しています。小職の過ごした地域科学部は課題に対し発想を求める環境だったと記憶しています。このような環境が徐々に広がると日本の人材も厚くなっていくでしょう。



UAE大統領筆頭顧問モハメッド・ハブルーシュ・アルスワイディ氏と



第15期生 おぎもと なおこ 萩本 尚子

私は平成26年度に地域科学部を卒業し、現在は社会人1年目として奮闘中です。

今回で縁があってこのような機会をいただきましたが、不思議とほんの数か月前までの大学生活が随分昔のこのように思い返されます。

私は現在、旅行業界で働いています。旅行は自分の人生を彩り、人同士の親密度を高め、様々な経験をもたらしてくれます。大学時代に友人とたくさん旅行に行ったことは私の大事な思い出であり、それが仕事をしていく上で自分の大きな糧となっていることを実感しています。自分が旅行に行ったときの楽しさや昂揚感などを思い返しながら、「より多くの人に旅行の良さを感じてもらいたい」という気持ちだけは揺らぐことなく抱き続けており、私の原動力となっています。

このように今、私が仕事を一生懸命頑張ることができるのは、社会の厳しさを教え、励まして下さる先輩方、切磋琢磨し合える友人、そして何よりも自分を一番理解してくれる家族の存在が支えとなっているからです。だからこそ心が沈みそうな時も自分の周囲に目を向け、日々感謝の気持ちを忘れないよう言い聞かせています。

同窓会は、同じく社会で奮闘している同級生たちや先生方・先輩方とお会いでき、人間関係の輪を広めることができる良い機会です。私も皆様にお会いできる日を心待ちにしつつ、早く一人前の社会人になれるよう精進していきたいと思います。

拙い文章ではありますが、最後まで読んでいただきありがとうございます。

進路状況

学部進路

2015年3月卒業生進路状況（2015年5月1日現在；カッコ内は人数で1名の場合は省略）

公務員(22)

経済産業省
国土交通省 (2)
財務省
岐阜県庁(4)
愛知県庁(2)
岐阜県警察(2)
愛知県警察(3)
岐阜県市町村立小中学校事務
安城市役所
稲沢市役所
犬山市役所
大府市役所
可児市役所
福井市役所

建設・製造業(12)

FD
ジェイアール東海コンサルタンツ
岡鈴
藤榮
サンメッセ
三甲
ロピア
日本ウエストン
三栄水栓製作所
竹内工業
デンソー
太平洋工業

運輸・情報・通信業(10)

アイガ
エヌ・ティ・ティ マーケティングアクト
コミュニティネットワークセンター
シーシーエヌ
テクノア
トランスコスモス
ビズリーチ
三菱電機ビジネスシステム
中電シーティーアイ
豊田ハイシステム

金融・保険業(12)

関信用金庫
西濃信用金庫
大垣共立銀行 (2)
日本政策金融公庫
八幡信用金庫
名古屋銀行
ウェルビーマーケティングジャパン
三井住友海上火災保険
住友生命保険相互会社
東京海上日動火災保険
明治安田生命保険相互会社

卸・小売業(17)

アルフレッサ日建産業
サングリーン
マルエム商会
モリマツ
赤塚植物園
中部化成薬品
富士ゼロックス岐阜
豊通鉄鋼販売
イオンペット
イオンリテール
コープあいち
ドミー
ドンキホーテ
井上精機
生活協同組合コープぎふ
平和堂
八神製作所

サービス業(11)

栄邦技研
公益社団法人岐阜県都市整備協会
自営
名南経営コンサルティング
Beans Bitou
JTBワールドバケーションズ
JTB中部
名鉄観光サービス
アテナ
ナショナルメンテナンス
トーカイ

医療・福祉・教育業(7)

岐阜県総合医療センター(2)
社会医療法人蘇厚生会松波総合病院
日本赤十字社岐阜県支部
ナンブ
国立大学法人岐阜大学
わ

不動産・物品賃貸業(5)

アップウィッシュ
総合鑑定調査
中村不動産
レントリース東海
レントック大敬

複合サービス業(6)

ぎふ農業協同組合
岐阜県農業協同組合中央会
西美濃農業協同組合
東美濃農業協同組合
日本郵便(2)

進学(5)

岐阜大学大学院地域科学研究科(2)
名古屋大学大学院国際言語文化研究科
名古屋大学大学院国際開発研究科
中央大学大学院商学研究科

卒業生数 117
就職希望者数 106
就職決定者数 102

進学者数 5
進路未定者数 6
その他 4

就職内定率※1 96.22%

※1 就職決定者数÷就職希望者数

研究科進路

2015年3月修了生進路状況（2015年5月1日現在；カッコ内は人数で1名の場合は省略）

公務員(1)

愛知県庁

情報通信業(2)

岐阜新聞社 (2)

医療・福祉・教育業(1)

ショートステイしきしま

進学(0)

修了生数 16
就職希望者数 7
就職決定者数 4
進学者数 0
進路未定者数 3
その他※2 9

就職内定率※1 57.14%

※1 就職決定者数÷就職希望者数
※2 社会人修了生を含む

ゼミ通信⑤

柴田努
セミナー

第15期生

はたのあやか
羽田野文香

今年の3月に地域科学部を卒業した羽田野文香です。現在は、岐阜大学の事務職員として財務部で仕事をしています。

学生時代は柴田努先生のゼミでお世話になり、日本経済や労働問題の研究をしていました。私は柴田ゼミの第一期生で、先生と4人のメンバーで一からゼミをつくりあげたことが強く印象に残っています。文献だけではわからないことを知るため、沖縄や福井へ出向いて地元の人と交流したり、極寒の長野で高崎経済大学の学生と合同合宿をしたり、学内外の研究会やセミナーに参加したりしました。ゼミ室を飛び出している学習には大きな刺激を受け、楽しい思い出にもなりました。ゼミでの学びは、決まった答えのない課題を追究することなので苦勞もしました。しかし、熱心な先生のもと、仲間との粘り強い議論を重ね、卒業する頃には後輩も増えてより活発なゼミになったことが本当に嬉しかったです。

そして私は自身の経験を踏まえ、学生がより自主的に学習・研究に取り組み、学ぶ楽しさや仲間と議論をする有意義さを感じられる大学にしたいと思い大学職員を目指すに至りました。

今は目の前の仕事をこなすだけで精一杯ですが、将来的には岐阜大学の発展に寄与できる職員となれるよう、前向きに明るくがんばりたいです。地域科学部で出会った人や学んだこと、たくさんの思い出は私の一生の財産です。職員として懸命に働くことで、大学に恩返しができたらと考えています。



平成26年度会計報告

自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日

(単位：円、小文字は内訳)

●収入の部

項目	決算額
会費 (96名×10,000円)	960,000
懇親会費 (32名×2,000円、1名×1,000円)	65,000
受取利息	3,030
当期収入合計	1,028,030
前年度繰越金	931,796
収入合計	1,959,826

●支出の部

項目	決算額
事業費	589,258
会報等印刷費	357,528
会報等郵送費	131,730
卒業・修了祝会祝金	100,000
大学フェア賛助金	0
事務費	394,524
人件費	343,424
事務用品費	46,774
通信費	4,326
会議費	106,990
諸会費	10,000
役員会雑費	29,580
交通費	67,410
総会費	185,582
懇親会経費	185,582
予備費	0
当期支出合計	1,276,354
当期予備費合計	0
支出合計	1,276,354

項目	収入の部	支出の部	差引計
次年度繰越金	1,959,826	1,276,354	683,472

●資産保管状況

項目	現在高
現金	0
普通預金	
十六銀行	683,472
郵便局	0
定期預金	
十六銀行	8,000,000
合計	8,683,472

帳簿及び証拠書類を監査した結果、上記のとおり相違ありません。

平成27年4月26日

監査 祖父江利佳



監査 伊藤健人



森の会のみなさま、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

いつも森の会の運営にご協力いただきまして、ありがとうございます。

地域科学部は来年、創設20周年を迎えようとしています。そして、2001年に1期生の卒業とともに産声をあげた森の会は、来年になると15歳です。他学部に比べるとまだまだですが、それでも、すいぶん大きくなったものですね。

来年の学部20周年の記念行事には、もちろん、森の会も協力いたします。ぜひ、皆さんでお祝いいたしましょう。

そこで、記念行事が予定されている来年10月に合わせて、今年の総会・懇親会はこれまでより早く10月の開催といたしました。わいわいがやがやとおしゃべりして、楽しいひとときをごいっしょに過ごしていただきたいと思います。

10月3日には、どうぞ、元気なお顔をお見せください。

森の会 会長 あさい 彰子 浅井 彰子

平成27年度 森の会役員

会 長／浅井 彰子①

副会長／浅野 善信① 都築 尚子①

幹事長／中山 智隆③

幹 事／伊藤 雅浩① 加地和歌子① 眞鍋 陽子① 笠原 正博⑩

平野 純里⑪ 藤井 敬子⑪ 野村 惇貴⑫ 小塩 里予⑭ 西野 公美⑮

会 計／荒瀬 修三③ 伊藤 未有⑮

監 査／祖父江利佳① 伊藤 健人③

(氏名の後の○の数字は、期生を表します ①…第1期生)

森の会 会員数 1,846名

(平成27年4月1日現在)

新役員の紹介

第15期生 いとう みゆう 伊藤 未有



こんにちは。このたび新たに森の会役員に就任しました伊藤未と申します。よろしくお願いたします。

私は岐阜県生まれ岐阜県育ちで現在も岐阜県に工場を持つメーカーで実家から通いながら働いています。学生時代に学んでいたことは専門が大きく違い、卒業してからも勉強の日々であることには変わりありません。それでも新しいことを吸収していくことに楽しみを覚え、悩みながらも充実した日々を送っています。

大学時代、私は林琢也先生のゼミで観光地理学を専攻していました。特に世界遺産に関心があった私は世界遺産登録が地域

にもたらす影響や効果について研究し、卒業論文にまとめました。鋭い指摘をしてくださる先生や感性豊かで賢いゼミの仲間とに囲まれて議論をすることで考えの幅が広がり、たくさんのことを身に付けて卒業することができたと思います。特に毎年の夏休みにゼミ生と先生とで行く合宿では、観光地理学ゼミならではの視点で観光地をめぐることができたため非常に楽しかったことを覚えています。

また、勉強だけでなく素敵で面白い友人と出会うことができましたのも大学生活で得た財産となっています。一人ではやろうと思わなかった貴重な体験を様々な友人がさせてくれました。学生生活の中で出会った多くの方々へ感謝しています。私の生活を彩り豊かにしてくれた友人たちのために、これから同窓会役員として少しでも貢献できれば幸いです。

「岐阜大学地域科学部同窓会 森の会」Facebook

森の会からのお知らせや、森の会会員の情報交換、近況報告、活動紹介などに気軽に活用してくださいね。

ぜひ、森の会 Facebook に参加を！



森の会では、みなさまからの近況報告、ご意見・ご感想を募集しております。メールまたは郵送にて下記宛先までお送りください。

連絡先

森の会(岐阜大学地域科学部同窓会)

〒501-1193

岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部内

TEL:058-293-3021

FAX:058-293-3008

E-mail:mori2001@gifu-u.ac.jp

事務局業務日(月・水・金 9:00~15:00)



森の会アドレスに簡単にアクセスできます



学生の主体的な学びを推進・支援するアカデミックコアが図書館1階にオープン！